

# 愛知県感染症情報

平成 13 年第 37 週（9 月第 2 週）

（コメント）

今週は特に目立った感染症の報告はありませんでしたが、先生方からのコメントにはマイコプラズマ肺炎の報告が見られます。

（定点の先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ SSSS（ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群） 3 歳女  
（一宮市 あさのこどもクリニック）

- ・ O1 18 歳女、O6 38 歳男、O18 18 歳女  
（尾西市 城後小児科）

- ・ マイコプラズマ肺炎 14 歳女  
（春日町 丹羽医院）

● 尾張東部地区

- ・ 水痘が目立ちます。手足口病もはやってます。  
（犬山市 武内医院）

- ・ 特に目立ったものなし。喘息発作が目立ってきました。  
（岩倉市 なかよしこどもクリニック）

- ・ 流行性耳下腺炎、手足口病の小流行があります。サルモネラ 04 9 ヶ月女。病原性大腸菌 086a V T（-）とサルモネラ 09 7 歳男。病原性大腸菌 01 7 歳男。  
（江南市 みやぐちこどもクリニック）

- ・ マイコプラズマ肺炎 2 例（4 歳男、4 歳男）。突発性発疹が 5 例と少し目立つ以外は感染症はみられません。  
（瀬戸市 津田こどもクリニック）

- ・ マイコプラズマ様の呼吸器感染症が少し目立つようですが、その他はこれといった流行はないようです。喘息が少し増加しました。  
（尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院）

\* 36 週のコメントで、瀬戸市の津田こどもクリニックと尾張旭市の医療法人誠和会佐伯小児科医院の医療機関名が入れ替わっていました。お詫びして訂正します。

- ・ 今週はムンプスがみられました。3 歳女児の外陰部から大腿の Herpes Simplex\* が 1 例みられました。

(春日井市 かがわ北病院)

注) Herpes Simplex\* : 単純ヘルペスヘルペスウイルス科のウイルスで 1 型と 2 型がある。

- ・ 感染症少ない、手足口病数名あり。  
(小牧市 小牧市民病院)
- ・ 風疹、1 歳の男児ですが予防注射済みです。  
(小牧市 鈴木小児科)

● 西三河地区

- ・ 病原性大腸菌 0168 2 ヶ月女  
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
- ・ 1 型ヘルペス 2 歳男  
(豊田市 医療法人やふそ小児科)
- ・ 溶連菌 3 歳 (男 2 人女 1 人は三つ子)  
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ カンピロバクター 8 歳男  
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ 4 歳の咽頭結膜熱はチェック Ad\* ( + ), サルモネラ菌 07 8 歳女  
(岡崎市 医療法人川島小児科水野医院)

注) アデノチェック (Ad)\* : 免疫クロマト法によるアデノウイルス抗原迅速検出キット。

- ・ サルモネラ菌 04 と病原性大腸菌 06 2 歳  
1 1 か月咽頭結膜熱はチェック Ad (アデノウイルス) 陽性  
(幸田町 とみた小児科)
- ・ 麻疹 軽症で、診断は IgM 抗体の上昇にてつく。 8 ヶ月乳児  
(知立市 宮谷クリニック)
- ・ 流行している感染症はありません。  
(西尾市 やすい小児科)

● 東三河地区

- ・ サルモネラ 09 4 歳女、カンピロバクター 9 歳男。2 つの保育園で手足口病流行中。  
(豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科)

(1~3 類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者 3 名

- ・ 江南保健所から報告の 3 歳男 (9/1 発病、9/3 初診、9/5 診定)。11 ヶ月男。(9/1 発病、9/6 初診、9/8 診定)。38 歳男。(8/26 発病、8/29 初診、9/12 診定)。菌型は、いずれも 0157 VT1・2 ( + )。

(全数把握の4類感染症の発生状況)

- ・ 無症候梅毒患者1名。
- ・ 後天性免疫不全症候群(HIV感染症)の無症候性キャリア 1名。

第35週(8月27日~9月2日)の4類感染症の全国状況

流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、過去10年間の同時期と比較して最大の定点当たり報告数が第19週から続いている。都道府県別では石川県5.28、沖縄県4.44、佐賀県3.65などの報告が多かった。感染性胃腸炎、伝染性紅斑などはオフシーズンであるが、定点当たり報告数は過去5年間の同時期と比較してやや多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

2001年7月27日号（76巻30号）

レジオネラ症：スペイン。続報。7月18日時点で同国国立衛生研究所は751例（検査室確定例310例、死亡2例）を報告。現在減少中。調査結果からは、発生の中心地区のムルシア市の冷却水の汚染によるもの（給水塔の水源から検出）。

世界のポリオ：野生株ポリオの実験室内保存状況。99年6月 - 01年6月。現在野生株が常在していない地区は南北アメリカ、西太平洋地区であり欧州地区もほぼ根絶されているが、世界的には野外調査における野生株は検出されていて、ウイルス学的検査を実施するにあたり、実験室内保管状況が問題となっている。ここでは世界各国における実験室内汚染状況とその対策がまとめられている。

インフルエンザ（01年7月）：チリ。A（H3N2）。ニュージーランド。A型とB型流行中。

7月20日 - 26日届出：コレラ：ベニン、チャド、ブルキナファソ、タンザニア、アフガニスタン、香港、日本（輸入例）。

2001年8月3日号（76巻31号）

コレラ：2000年の世界の状況。WHOに報告された2000年のコレラ患者数。各国からの報告数と1990年 - 2000年の報告国数、患者数と発生報告国の世界地図の分がまとめられている。目立つのはアフリカ地区（届出数118,922。死亡4,610）、南北アメリカ（3,101例。死亡40例）、アジア地区（11,246例。死亡232例 = うち198例がアフガニスタンです = ）。報告国数、患者数の最近10年間のグラフに変化はない。考え込んでしまうのはWHOの報告国の世界地図全てで東南アジア（インドネシア、タイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナムなど）とアフリカ地区（サハラ周辺諸国の殆ど）が空白になっている状況である。経口ワクチンの開発状況についてその進展状況がまとめられている。安全性・有効性ともに優秀なワクチン開発がすすめられているが、実際の使用に関しては現場の状況に合わせた検討が必要であろう。

インフルエンザ（01年6月）：チリ。A（H3N2）とB型。アルゼンチン。A型。

WHOのコレラ関連の出版物一覧。

7月27日 - 8月2日届出：コレラ：インド。

## 愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

朝夕めっきり涼しくなって病院の中庭の虫の声も賑やかになってなってきましたが日中の暑さは今だに酷暑と言いたくなる日差しです。いつも貴重な情報を有難うございます。9月前半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：名鉄病院宮津先生からはムンプス散発中（無菌性髄膜炎あり）、マイコプラズマ肺炎と喘息性気管支炎も増加中、第一日赤有吉先生からは急性咽頭・扁桃炎、溶連菌感染症が多く、川崎病、顔面神経マヒ、気管支喘息、急性肺炎が目立つ、城北病院渡辺先生からは新学期になって不定愁訴増加、サルモネラ感染症散発、マイコプラズマ肺炎が多くアデノウイルス感染症は峠をこえた、千種区今枝先生からは感染性胃腸炎がぼつぼつあり、手足口病、ムンプス、マイコプラズマ肺炎散発、三菱病院岩間先生からはムンプスが目立ちマイコプラズマ肺炎+胸膜炎、ウイルス性髄膜炎、麻疹の入院各1例、中京病院柴田先生からはマイコプラズマ肺炎増加、ムンプス髄膜炎がパラパラあり川崎病1例、労災病院山田先生からはマイコプラズマ肺炎、膿痂疹、細菌性腸炎症、扁桃炎が目立ち、乳児の百日咳ありとのお手紙でした。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎、水痘、ムンプス、ヘルペス歯肉口内炎が散発中、江南市からはMRSAによるブ菌性火傷様症候群、肺炎（マイコプラズマ、クラミジア）、アデノウイルス感染症、細菌性腸炎が目立つ（昭和病院西村先生、愛北病院露木先生）、常滑市民病院上田先生からは手足口病、ムンプス（髄膜炎あり）、溶連菌感染症、マイコプラズマ肺炎、咽頭結膜熱が目立つとのお手紙でした。

3. 三河地区：豊田地区からは喘息性気管支炎、川崎病、マイコプラズマ肺炎サルモネラ腸炎あり（トヨタ病院木戸先生、加茂病院梶田先生）、岡崎市民病院系洲先生からは特に目立つものはない、刈谷市田和先生からは高熱が3-5日続いて頭痛や下痢を伴う例が散発中、碧南市永井先生からはムンプスと手足口病が散発中、豊橋市宮澤先生からは手足口病、ムンプス、水痘いずれも少数例とのお手紙でした。有難うございました。